

01 高齢者の事故件数の増加

近年、交通事故件数は減少。しかし高齢者の事故件数は増加。

高齢者の免許返納率は2019年をピークに減少傾向、特に都市部に比べ地方の返納率は低い。

特に北陸地方は年間を通じて降雨日が多く、自家用車への依存度は高く依存生活から抜け出せない。

02 地方の公共交通の弱さ

対策として、地方自治体では町営バスの利用券の配布など、返納者支援を行っている。しかし申請者の住所によって支援制度の利用のしやすさに差があることが課題。

また、住まいからバス停が遠い、バスルートが目的地と一致しない、バスの運行本数が少ないなど、返納後の生活を送るには不便であることがうかがえる。

バスの利用率が低いことで赤字路線となってしまうことも地方の公共交通の課題の一つである。高齢者の免許返納の促進には公共交通の拡充が急務である。

03 オンデマンドバスの登場

そのなかで、地方都市では、一般的な巡回バスからオンデマンドバスへの移行の動きがある。オンデマンドバスは運行ダイヤは決められておらず、利用している時に利用することができる。

移行により、利便性の向上はもちろん、高齢者の免許返納の促進と、コミュニティバスの赤字問題の同時解消が期待できる。

津幡町は2023年12月から、「のるーと」を導入。既存路線を半分廃止し、メンテナンス費の削減とバスの利用率の向上を実現した。しかし、導入に伴い課題も明らかになった。(補足資料参照)

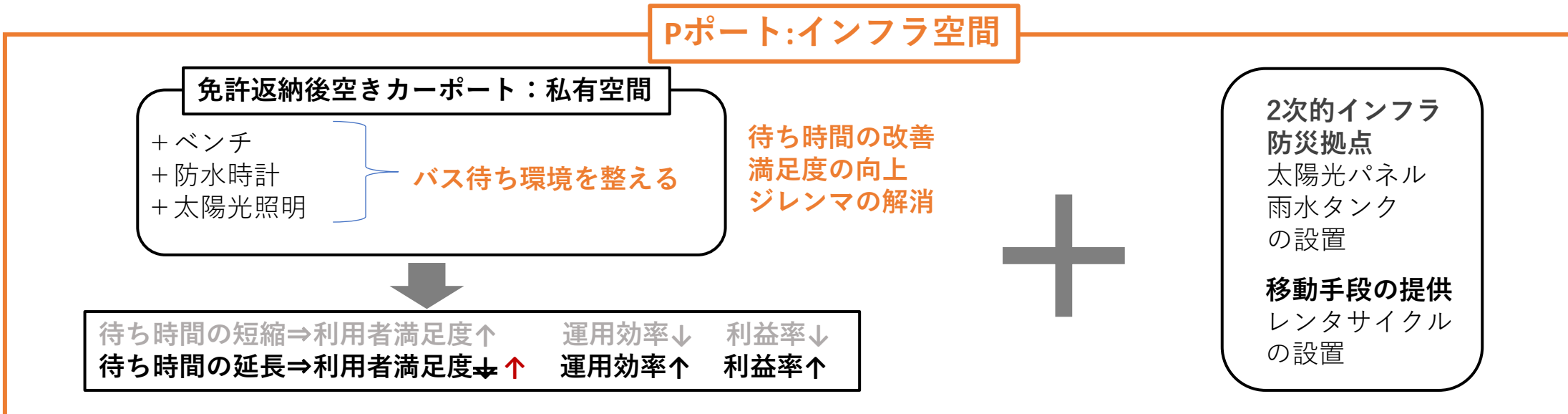
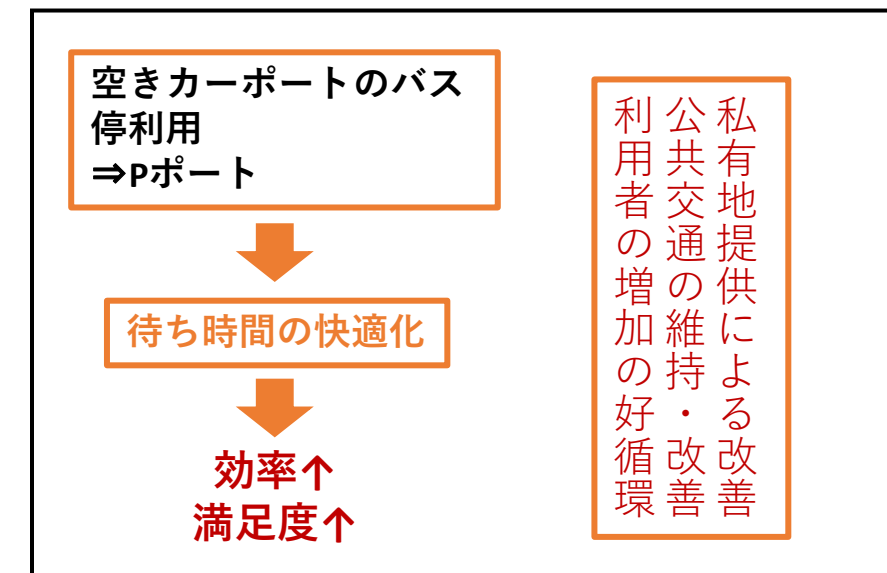
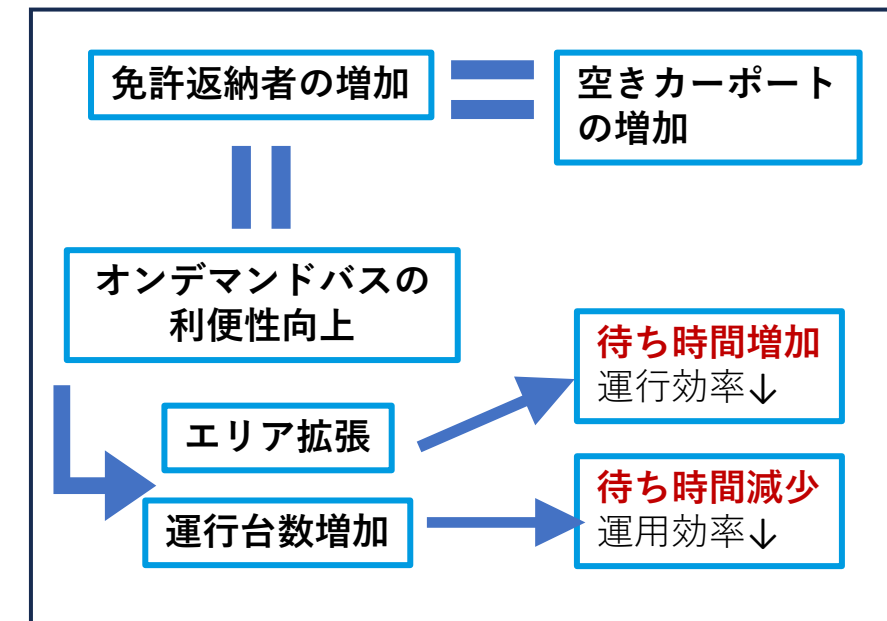
Pポート～空きカーポートのバス停利用からはじまる地域住民によるまちづくり～

最大20分程度の運行時間のずれの発生(10分の遅延、12.5分の到着時間の遅れ)

オンデマンドバスの運行特性上、待ち時間の短くすると、利用者満足度はアップするが運用効率はダウンし、待ち時間を長くすると顧客満足度は低くなるが運用効率はアップするというジレンマが生じる。利用者の増加と運用効率向上のバランスがとても難しい。

短時間とはいえ、雨ざらしの乗降場所

石川県津幡町の150の乗降ポイントは雨ざらしである。降雨日、降雪量、降雪量が多い石川県で雨ざらしのバス停は利用者にとって不便である。性質上待ち時間や到着時間の遅れの改善が難しい交通。バランスの良い、普及率アップには待ち時間の快適化が有効。そこで免許返納後の空きカーポートのバス停利用を提案する。



Public People
Promote Promotion space

自家用車のための私的カーポートは、公的で、人々の居場所として オンデマンドバス普及を促進し新たなインフラ空間となる

私的空間 >>> 公共空間 クルマ >>> 人々